

歴史的街区における路地空間の構成に関する研究 - 京都市中京区における街路表象の特性 -

日大生産工(院)
日大生産工

○伊良 雅樹
宮崎 隆昌

1. はじめに

都市に連続した住環境の形成、また空間の連担性獲得は、居住者と近隣住民の共生および生活共同の重要な構成要因となる。これに呼応して、住み手の生活空間における相互扶助形態の生成構造を明らかにし、周辺環境や近隣住民との相互主体的な住環境の構築が求められている。

都市を用途地域別に分節する一般的な都市計画は、性質・用途といった機能的側面のみで空間を単一なものとした。しかしそれでは、住み手の能動的な環境形成を包含する実体的な空間構造は生成しえないと考えられる。このことから居住者は、周辺環境や近隣住民との相互の関係を通じて、性質・用途を越えた共生価値空間を生成しているといえる。

このような共生価値生成の相互扶助形態のひとつに路地空間があげられ、これまでさまざまに研究がされてきた。都市計画研究が空間の単純化をたどる一方で、路地はこうした空間モデルでは捉えきれない複雑性を包含している。

以上のような背景をもとに、本研究では、住民の能動的環境形成の自発的利用形態である路地空間を通じて、共生価値生成の仕組みや空間構造を明らかにし、住環境における共生と生活共同の基礎的知見を得ることを目的とする。

2. 既往研究と本研究の位置づけ

既成市街地における、住環境を対象とした研究は多く存在する。本研究と関係の深い研究を以下に示す。

小林ら¹⁾²⁾の研究は、住戸近傍における行動の広がり、近隣交際、表出、視線の交流などは相互に関係し、それらにより空間は次第に近隣の共有の領域になっていくと論じている。横山ら³⁾は、近隣関係や住環境の仕組みを解明することで共生価値生成の構造についての検討を行なっている。青木ら⁴⁾⁵⁾は、動的側面である人の分布を扱い、場所の開放性と領域化の関係について論じている。また文献⁴⁾において青木らは、“「あふれ出し」が「表室」となりうる可能性がないわけではない”として、あふれ出されたものすべてを「あふ

れ出し」と定義している^{注1}。これは、「あふれ出し」を相対的な視点で把握することで、路地空間における「あふれ出し」が、性質や用途といった一義的な機能のみに利用されないことを示唆する考え方であるといえる。

そこで本研究では、住民の能動的環境形成の表出である街路表象を研究の主対象として、街路表象とその空間配置が生成する相互扶助形態についての把握検討を行なう。また、本研究における街路表象の定義は、「表出」や「あふれ出し」、また古くから日本に存在し、地縁のコミュニティを支えてきた地蔵や井戸などの都市装置といった、路地に置かれたもの全てを総称して街路表象とする。

3. 研究概要

3-1. 研究対象地

従来から日常生活と深い関係を持つ路地空間が形成され、路地が現在でも人々にとって最も身近な交流・滞留の場として機能している都市として京都があげられる。本研究では京都市中京区の堀川通～河原町通・二条通～四条通で囲まれた範囲に存在する 58 ヶ所の路地を対象として研究を進める(Fig.1)。



Fig.1 研究対象地

3-2. 調査方法

研究対象地内の路地の形状・街路表象・路地に対する住居の屋根伏せ・住居のエントランスについてフィールドサーベイを行った(Tab.1)。

3-3. 研究方法

空間は、その部分をなすものと、それらの配置によって連鎖をなした集合の構成といえる。つまりどの空間も全体を構成する部分である単位にかかわり、そしてその集合の仕方にかかわる。こうした空間全体と部分の関係性を明らかにするため、路地空間を構成する最小の単位を街路表象と位置づけ、研究を以下のように進めた(Fig.3)。

- i. 居住者によって、任意的・偶発的に選択・配列された街路表象の状態把握(4)
- ii. .把握された単位の集合で構成される集合形態と住戸との関係性の把握・検討(5)
- iii. .把握された単位の集合で構成される地域的空間構成と路地空間における空間の連続性について分析・検討(6)

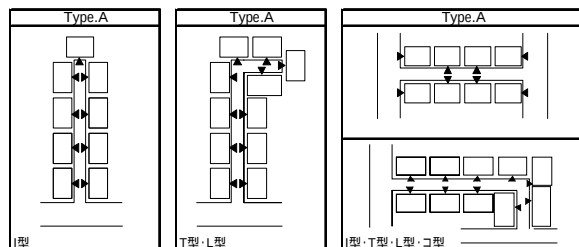


Fig.2 路地の分類

Tab.1 路地の概要

路地 No.	住戸	街路表象	方向	性質	形状	タイプ
01	3	23	西・東	袋小路	L型	B
02	2	27	東・西	袋小路	I型	A
03	2	4	西・東	袋小路	I型	A
04	2	65	東・西	袋小路	L型	C
05	5	265	西・東	抜小路	コ型	C
06	3	9	西・東	袋小路	I型	A
07	2	8	西・東	袋小路	I型	A
08	24	233	東・南	抜小路	コ型	C
09	8	104	西・東	袋小路	L型	B
10	3	8	西・東	袋小路	L型	B
11	5	71	西・南	抜小路	L型	C
12	7	56	東・西	袋小路	I型	A
13	4	59	東・西	袋小路	L型	B
14	4	104	東・西	袋小路	I型	A
15	9	16	東・西	袋小路	T型	B
16	7	47	西・東	袋小路	I型	A
17	14	177	東・西	袋小路	L型	B
18	6	21	西・東	袋小路	I型	A
19	3	34	西・東	袋小路	I型	A
20	7	33	東・西	袋小路	L型	B
21	5	30	西・東	抜小路	コ型	C
22	3	48	東・西	袋小路	I型	A
23	4	107	西・東	袋小路	I型	A
24	5	109	東・西	抜小路	コ型	C
25	12	112	西・東	袋小路	I型	A
26	7	109	西・東	袋小路	I型	A
27	6	108	東・西	袋小路	I型	A
28	5	126	東・西	袋小路	I型	A
29	16	392	西・南	抜小路	L型	C
30	3	119	東・西	袋小路	I型	A
31	4	41	東・西	袋小路	L型	B
32	5	21	東・西	袋小路	I型	A
33	2	90	西・東	袋小路	I型	A
34	8	55	西・東	袋小路	L型	B
35	5	83	西・東	袋小路	I型	A
36	2	37	西・東	袋小路	I型	A
37	3	28	西・東	袋小路	I型	A
38	10	183	東・西	袋小路	I型	A
39	3	36	東・西	抜小路	コ型	C
40	2	44	東・西	袋小路	L型	B
41	29	525	東・南	抜小路	L型	C
42	10	95	南・北	袋小路	T型	B
43	8	99	北・南	袋小路	I型	A
44	7	327	南・北	袋小路	I型	A
45	3	128	南・北	袋小路	T型	B
46	5	81	北・南	袋小路	I型	A
47	18	73	北・南	袋小路	L型	B
48	3	22	南・北	袋小路	L型	B
49	7	86	南・北	袋小路	I型	A
50	7	115	南・北	袋小路	T型	B
51	4	58	南・北	袋小路	T型	B
52	2	5	北・南	袋小路	I型	A
53	2	29	北・南	袋小路	I型	A
54	58	580	南・北	抜小路	コ型	C
55	2	73	北・南	袋小路	I型	A
56	21	320	南・北	抜小路	コ型	C
57	8	61	北・南	袋小路	I型	A
58	7	64	南・北	袋小路	I型	A

3-4. 路地の分類

路地の形状は、その形成過程によりさまざまであり、路地空間を分析する主要な指標といえる。ここでは、物理的形状のみで Type. A(袋小路)・Type. B(袋小路)・Type. C(袋小路)に分類する(Tab.1)。

4. 街路表象の選択と配列

4-1. 分析手法の検討および分類

街路表象は、公的・私的といった性格に関わることもあれば、「憩う」や「催す・集う」、あるいは「豊かにする」⁶⁾といった使用用途に対応することもある。ここでは、より即物的な単位による「接触／隔離」の関係で、街路表象の選択(組合わせ)と配列(結びつき)の状態把握を行なう(Tab.2)。また、「接触／隔離」によって関係付けられる状態を、「独立して隔離された状態の単体(a → a)」「複数の街路表象と接触することで、一方の使用用途に変化のみられる付加(a + b → a + b)」「複数の街路表象と接触するがそれぞれの使用用途に変化のみられない並列(a + b → a + b)」に分類する。

Tab.2 <接／離>による選択・配列の割合

路地 No.	全街路 表象数	街路・配列			割合	路地 No.	全街路 表象数	街路・配列			割合	
		単体	付加	並列				単体	付加	並列		
01	23	15	7	1	0	34.8%	31	41	22	5	2	46.3%
02	27	27	0	0	0	0%	32	21	21	0	0	0%
03	4	4	0	0	0	0%	33	90	90	0	0	0%
04	65	49	15	1	0	24.6%	34	55	53	0	2	3.6%
05	265	116	136	4	9	56.2%	35	83	80	0	3	3.6%
06	9	6	2	1	0	33.3%	36	37	31	0	6	16.2%
07	8	8	0	0	0	0%	37	28	28	0	0	0.0%
08	233	156	66	6	5	33.0%	38	183	174	4	1	4.9%
09	104	69	32	3	0	33.7%	39	36	33	2	1	8.3%
10	8	8	0	0	0	0%	40	44	44	0	0	0%
11	71	71	0	0	0	0%	41	525	372	135	13	29.1%
12	56	46	9	1	0	17.9%	42	95	95	0	0	0%
13	59	37	21	1	0	37.3%	43	99	83	10	2	16.2%
14	104	87	12	2	3	16.3%	44	327	303	12	2	7.9%
15	16	16	0	0	0	0%	45	128	128	0	0	0%
16	47	43	3	1	0	8.5%	46	81	41	0	40	49.4%
17	177	134	23	1	19	24.3%	47	73	73	0	0	0%
18	21	21	0	0	0	0%	48	22	22	0	0	0%
19	34	34	0	0	0	0%	49	86	59	25	2	31.4%
20	33	31	0	0	2	6.1%	50	115	89	25	1	22.6%
21	30	23	6	1	0	23.3%	51	58	41	16	1	29.3%
22	48	48	0	0	0	0%	52	5	3	1	1	40.0%
23	107	73	2	2	30	31.8%	53	29	29	0	0	0%
24	109	92	8	1	8	15.6%	54	580	482	83	9	16.9%
25	112	91	16	5	0	18.8%	55	73	73	0	0	0%
26	109	98	10	1	0	10.1%	56	320	307	10	3	4.1%
27	108	104	3	1	0	3.7%	57	61	58	0	3	4.9%
28	126	76	43	3	4	39.7%	58	64	51	12	1	20.3%
29	392	330	24	5	33	15.8%						
30	119	110	0	0	9	7.6%						

Tab.3 選択・配列の割合が上位を示した路地

路地 No.	全街路表象数	街路表象			選択・配列の割合	タイプ
		単体	付加	並列		
05	265	116	136	4	56.2%	C
46	81	41	0	40	49.4%	A
31	41	22	5	12	46.3%	B
52	5	3	1	1	40.0%	A
28	126	76	43	3	39.7%	A
13	59	37	21	1	37.3%	B
01	23	15	7	1	34.8%	B
09	104	69	32	3	33.7%	B

4-2. 分析結果

<接触／隔離>による街路表象の選択・配列の関係について分析する。接触による選択・配列の割合が最も高い値を示した路地は、No.05 で 56.2%であった。また、他の街路表象と接触を持たず、単体の状態にある街路表象のみで構成される路地は 19 ヶ所存在した。

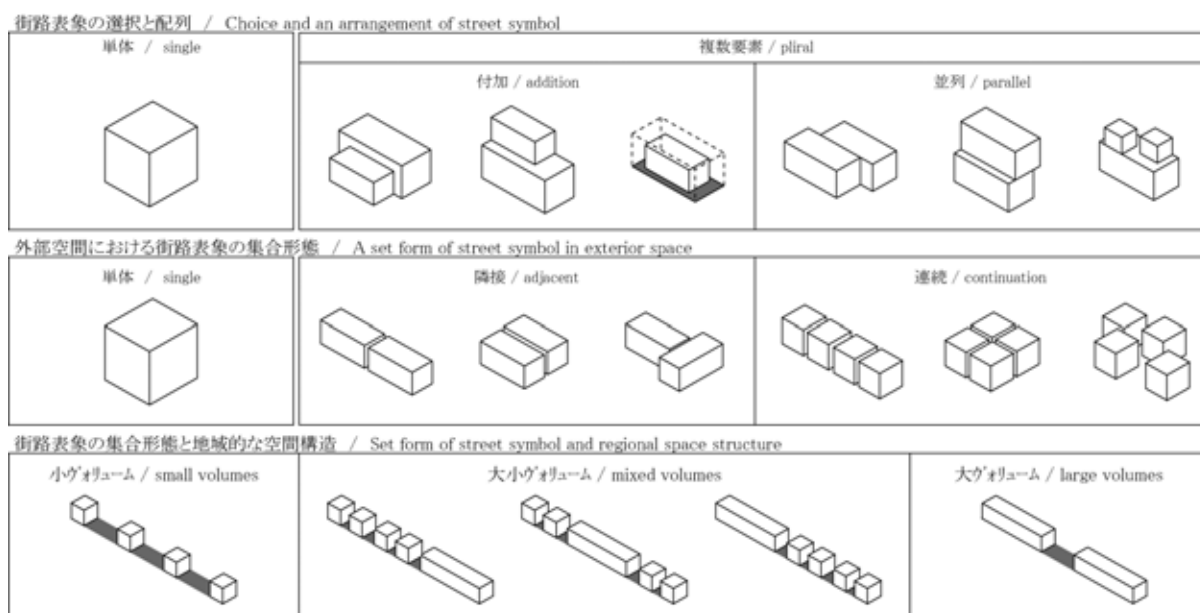


Fig.3 研究方法および各単位のダイヤグラム

5. 街路表象の集合形態と住居

5-1. 分析手法の検討および分類

本項では、前項で〈接／離〉によって関係付けられた街路表象を単位として、その集合が外部空間に形成する集合形態、また住居との関係性について分析を行なう。これにより、外部空間に対する各住居の領域の確保および空間分節のあり方を明らかにする。ここでは、街路表象の集合形態を「単体」「隣接」「連続」に分類する(Tab.4)。

5-2. 分析結果

平均集合形態数が最も高い路地は、No.23 の路地で 5.5 を示した。また、上位 12 ケ所の路地では、Type. A・Type. C の路地が同様の 5 ケ所を示した。しかし、路地の分布の割合からそれぞれ Type. A は全体の 17%、Type. C は全体の 45%となる。このことから抜小路の路地は、他の路地に比べ居住者が街路表象を表出しやすいことが考えられる。

6. 街路表象の集合形態と地域的な空間構成

6-1. 路地空間における部分と全体の関係性

前項で把握された単位の集合によって構成される街路表象の地域的な空間ボリュームを分類し、路地空間における空間の連続性について分析・検討を行なう。また、前項で得られた空間単位といかなる関係をもつかを示し、部分の連鎖や接続のされ方などによる空間の連続性について考察を行なう (Tab.6)。

6-2. 分析結果

路地空間における街路表象の空間ボリュームが形

成する空間の連続性について考察を行なう。大ボリュームがもっとも多く形成された路地は No.41 で 13 であった。また、上位 8 ケ所の路地に Type. C の路地は 5 ヲ所あり、そのなかで前項の平均集合形態数の上位 12 ケ所にも含まれている路地は 4 ケ所であった。一方で、同様に平均集合形態数の上位に含まれた Type. A の 5 ヲ所の路地は、うち 4 ケ所が大ボリューム数で 1 あるいは 0 の値を示し、下位にみられた。このことから、Type. A と Type. C の示す集合形態の役割・機能は異なっていることが考えられる。

7. まとめ

本研究では、住民の能動的環境形成の表出である街路表象とその空間配置に着目することにより、路地空間における住民の共生と生活共同の把握を行なった。

分析結果より得られた知見を以下にまとめる。

1) 居住者によって、任意的・偶発的に選択(組み合わせ)・配列(結びつき)される街路表象は、街路表象数・住居数・路地の形状による数値の違いは見られなかった。

2) 抜小路の路地は、袋小路の路地に比べ居住者が街路表象を表出していることがわかった。これは、「囲い空間のように閉鎖性が高い方が領域化されやすく、私的利用がされやすい」といった一般的建築計画研究などとは異なる知見を示した。

3) 大ボリュームの集合形態は、隣接する住居と領域を共有して形成していることが多く、空間に連続性を与えることができる。このことから、抜小路の路地は、地域的空間利用のされやすい連続した空間構造であることがわかった。

Tab.4 街路表象の集合形態と住居との関係性

路地 No.	住居数	集合形態				平均集合形態	No.	住居数	集合形態				平均集合形態
		連続	単体	隣接	計				連続	単体	隣接	計	
01	3	4	2	0	6	2	31	4	5	3	2	10	2.50
02	2	5	0	0	5	2.50	32	5	2	8	1	11	2.20
03	2	0	2	1	3	1.50	33	2	3	0	2	5	2.50
04	2	4	2	1	7	3.50	34	8	6	6	2	14	1.75
05	5	10	8	6	24	4.80	35	5	9	9	1	19	3.80
06	3	1	2	1	4	1.33	36	2	5	1	2	8	4
07	2	1	1	1	3	1.50	37	3	3	3	0	6	2
08	24	20	4	4	28	1.17	38	10	15	6	2	23	2.30
09	8	12	6	2	20	2.50	39	3	4	5	1	10	3.33
10	3	1	1	2	4	1.33	40	2	3	2	1	6	3
11	5	4	1	0	5	1	41	29	58	37	12	107	3.69
12	7	6	3	1	10	1.43	42	10	7	10	2	19	1.90
13	4	4	7	2	13	3.25	43	8	9	10	2	21	2.63
14	4	8	2	0	10	2.50	44	7	10	3	3	16	2.29
15	9	1	1	0	2	0.22	45	3	5	2	0	7	2.33
16	7	7	5	2	14	2	46	5	6	1	5	12	2.40
17	14	20	18	10	48	3.43	47	18	8	4	7	19	1.06
18	6	3	4	3	10	1.67	48	3	3	3	1	7	2.33
19	3	3	0	2	5	1.67	49	7	8	3	0	11	1.57
20	7	5	5	2	12	1.71	50	7	13	5	2	20	2.86
21	5	3	8	2	13	2.60	51	4	5	4	1	10	2.50
22	3	6	2	4	12	4	52	2	1	0	1	2	1
23	4	9	11	2	22	5.50	53	2	1	1	0	2	1
24	5	12	4	1	17	3.40	54	58	52	27	18	97	1.67
25	12	16	3	2	21	1.75	55	2	3	1	1	5	2.50
26	7	3	8	4	15	2.14	56	21	20	14	8	42	2
27	6	10	6	2	18	3	57	8	6	5	2	13	1.63
28	5	6	4	1	11	2.20	58	7	6	4	4	14	2
29	16	30	29	10	69	4.31							
30	3	11	3	0	14	4.67							

Tab.5 住居に対する平均集合形態が上位を示した路地

路地 No.	住居数	集合形態				平均集合形態	タイプ
		連続	単体	隣接	計		
23	4	9	11	2	22	5.50	A
05	5	10	8	6	24	4.80	C
30	3	11	3	0	14	4.67	A
29	16	30	29	10	69	4.31	C
22	3	6	2	4	12	4	A
36	2	5	1	2	8	4	A
35	5	9	9	1	19	3.80	A
41	29	58	37	12	107	3.69	C
04	2	4	2	1	7	3.50	B
17	14	20	18	10	48	3.43	B
24	5	12	4	1	17	3.40	C
39	3	4	5	1	10	3.33	C

Tab.6 集合形態と地域的な空間構造の関係性

路地 No.	ヴォリューム			大ヴォリューム の割合	路地 No.	住戸	ヴォリューム			大ヴォリューム の割合
	大	小	計				大	小	計	
01	1	5	6	0.167	31	4	1	9	10	0.10
02	3	2	5	0.600	32	5	0	11	11	0.00
03	0	3	3	0.000	33	2	1	4	5	0.20
04	2	5	7	0.286	34	8	1	13	14	0.07
05	3	21	24	0.125	35	5	1	18	19	0.05
06	0	4	4	0.000	36	2	0	8	8	0.00
07	0	3	3	0.000	37	3	1	5	6	0.17
08	5	23	28	0.179	38	10	4	19	23	0.17
09	3	17	20	0.150	39	3	1	9	10	0.10
10	0	4	4	0.000	40	2	1	5	6	0.17
11	1	4	5	0.200	41	29	13	94	107	0.12
12	1	9	10	0.100	42	10	2	17	19	0.11
13	2	11	13	0.154	43	8	1	20	21	0.05
14	2	8	10	0.200	44	7	4	12	16	0.25
15	1	1	2	0.500	45	3	4	3	7	0.57
16	0	14	14	0.000	46	5	1	11	12	0.08
17	3	45	48	0.063	47	18	2	17	19	0.11
18	0	10	10	0.000	48	3	0	7	7	0.00
19	0	5	5	0.000	49	7	2	9	11	0.18
20	2	10	12	0.167	50	7	2	18	20	0.10
21	0	13	13	0.000	51	4	1	9	10	0.10
22	1	11	12	0.083	52	2	0	2	2	0.00
23	0	22	22	0.000	53	2	0	2	2	0.00
24	6	11	17	0.353	54	58	7	90	97	0.07
25	5	16	21	0.238	55	2	2	3	5	0.40
26	1	14	15	0.067	56	21	5	37	42	0.12
27	1	17	18	0.056	57	8	1	12	13	0.08
28	2	9	11	0.182	58	7	0	14	14	0.00
29	10	59	69	0.145						
30	5	9	14	0.357						

Tab.7 集合形態に対する大ヴォリュームが上位を示した路地

路地 No.	ヴォリューム			大ヴォリュームの割合	タイプ
	大ヴォリューム	小ヴォリューム	計		
41	13	94	107	0.12	C
29	10	59	69	0.145	C
54	58	7	90	97	C
24	6	11	17	0.353	C
30	5	9	14	0.357	A
25	5	16	21	0.238	A
08	5	23	28	0.179	C
56	5	37	42	0.12	C

4) 平均集合形態で上位に示された Type. A の路地

は、その集合形態が小ヴォリュームに形成されており、領域の確保や生活のあふれ出し物品といった私的利用のされやすい路地であると考えられる。

5) 3)4)より同様の集合形態を形成していても、路地の形状によってその役割・機能に差異が生じることがわかった。このことから、単位化された全体が一致した状態（値）を示しても、それが全体を構成する部分として論じた場合に、異なった状態（値）として従属される可能性を示唆しているといえる。

今後の課題として、本研究より得られた路地空間の理解をより明らかにすると共に、異なる視点による新たなむすびつきについての把握・検討が考えられる。

[注釈]

- 注1) 青木らは、「表出」「あふれ出し」の違いは外部空間における領域の意味を明確にとらえる為には不可欠な差異であるとして、文献5)においてその意味を検討している。
- 注2) 本研究では、街路から裏屋および裏敷地へアプローチするための通路を「路地」と呼び、この路地上に置かれた物品類を含めて、交通および生活行為の場として路地を総括的に呼ぶ場合に「路地空間」として定義する。

[参考文献]

- 小林秀樹、鈴木成文：集合住宅における共有領域の形成に関する研究—その1 共有領域の構造、日本建築学会計画系論文報告集、第307号、1981
- 小林秀樹、鈴木成文：集合住宅における共有領域の形成に関する研究—その2 建築形態の影響、日本建築学会計画系論文報告集、第319号、1982
- 横山俊祐、延藤安弘：高密度集住市街地における共生価値生成の構造に関する研究 1990年第25回日本都市計画学会学術研究論文集 pp211～PP216
- 青木義次・湯浅義晴：開放的路地空間での領域化としてのあふれ出し—路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証 その1.日本建築学会計画系論文報告集、第449号、1993
- 青木義次・湯浅義晴：あふれ出しの社会的効果—路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証 その2.日本建築学会計画系論文報告集、第457号、1994
- 辻川ひとみ・北浦かほる他：都市における空間構成要素の位置づけ—ストリートファニチュア—戎橋周辺の定義と分類—日本建築学会計画系論文報告集、520号、1999
- 金栄爽・高橋直志：密集住宅地「住宅都」における路地と隙間の役割に関する研究 日本建築学会計画系論文報告集、第469号、1995
- 花里俊慶・高橋直志他：集合住宅のオープンスペースにおける人の分布状況とその分析—共生環境の形成に関する研究—その1.日本建築学会計画系論文報告集、第500号、1997
- 坂本一成：住宅—日常の詩学。TOTO出版、2001